

分科会	小4年	郡市名	岡崎
提案者	岡崎市立大門小学校		實松 勇太

## 1 研究主題

仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業

—4年「大門の人々はどんなまちを目指してきたのだろう」の実践を通して—

## 2 はじめに

岡崎市社会科部では「仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」をテーマとして授業研究に取り組み、今年度で2年目になる。昨年度までの研究を通して、学校内の「級友・教師」とは、かかわりあいを中心としながら、積極的に意見交換する姿が見られた。また、学校外の「社会事象にかかわる人」とは、単元計画に従い、適切な場で出会い、そこから学びを得ようとする子どもたちの姿が見られた。一方で、学校内の仲間とかかわりあいによって変化していく子どもの姿をより丁寧に見ていくことや、学校外の仲間とかかわりをさらに深めていきたいという課題が挙げられた。また、新学習指導要領では、「改訂の趣旨」における「基本方針」の中で、「社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実し」と謳っている。これらの成果と課題、時代の要請から、今年度は学校内外の仲間とかかわりを深め、よりよい社会づくりへ参画をめざす子供の育成を目指して実践を行いたい。

## 3 研究の基本的な考え

### (1) 研究単元の設定理由

子どもたちは、運動会などの学校行事やしめ縄広報活動といった学年行事を通して学区の方とふれあう機会があるのに、普段深く考えることなく大門小学校で生活している。当たり前のように暮らしているこの大門学区が築かれていく過程について触れる機会は多くない。また、新たに引っ越してくる人の占める割合が増え、学区の歴史について理解している方が減少している現状がある。

そんな状況において、40数年前までは農村地域であった大門学区が、いかにして人口急増地区になったのかという点について調べることは、子どもたちにとって大門学区の変化と自分との関わりに目が向けられる価値のあるものだと考えた。まちの未来を決めるといふ葛藤を乗り越えて「区画整理」という選択にまとまる過程や、未来の学区の発展を願う先人たちの思いにふれることで、学区についての愛着を感じるだろう。そんな子どもたちがまちづくりに参画していこうとする心を高められると考え、本単元を設定した。

### (2) 研究主題のとらえ

「仲間とかかわりながら、よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」を次のように捉えた。

#### ○仲間とかかわりながら

「仲間」とは、共に学びあう学級の子どもたちと共に、学びを通してかかわる保護者や区画整理を進めた方や総代さんなどの学区の人たちすべてを含めたものを意味する。よりよい社会づくりへの参画のために、仲間とかかわりあうことが礎となると考える。

#### ○よりよい社会づくり

「よりよい社会」とは、自分も仲間も互いの思いを大事にした社会である。そのうえで、互いの考えのよさを生かしながら、よりよい解決をめざす子どもの姿を求める。

#### ○参画をめざす

行動化だけを目指すのではなく、行動化への意欲を高めたり、きっかけを作ったりする「参画していこうとする」姿や、社会とかかわりに「思いをはせる」姿も目指す。

### (3) 目指す子ども像

・学級の仲間や大門のまちづくりに貢献してきた方とのかかわりを通して、自身も学区民の一員だという自覚が芽生え、大門の未来のまちづくりに参加しようという意欲を高められる子ども

### (4) 研究の仮説

目指す子ども像から次のような研究仮説を設定した。

**仮説1** まちづくりが子どもたち自身に身近な問題と感じられる単元構想の工夫をし、仲間と考えをかかわらせる場を多く設定して合意形成の機会を増やせば、学区に愛着を感じ、仲間とともに課題を解決していきたいという意欲が高まるだろう。  
**仮説2** まちの発展に貢献した人の思いに迫ったり、未来の大門が発展するためのアイデアを提案したりする機会を設ければ、よりよい社会の実現のための問題解決について自分なりの考えをもち、学区民の一員だという自覚をもたせることができるだろう。

### (5) 研究の手だて

#### **仮説1に対する手だて**

##### **手だて① まちづくりが子どもたち自身にとって身近だと感じられる単元構想**

大門小学校創立40周年記念ファイルや42年前と現在とを比較しやすい航空写真を導入に用いる。また、区画整理と人口の増加や街並みとの関係、保護者アンケートをもとに大門の「住みやすさ」を考えるなど、自分事として捉えられる工夫をする。

##### **手だて② 仲間と考えをかかわらせる場を多く設定する**

事前に子どもたち一人一人が予想をもった上での調べ学習や話し合いで個人の考えをじっくりと固めた後にペアやグループで意見交換や合意形成を図る場を作る。まちづくりと同様に、様々な立場での意見があることを知り、それを踏まえた上で意思決定を行うことで、社会参画への一步を踏み出す場とする。

#### **仮説2に対する手だて**

##### **手だて③ まちの発展に貢献してきた人・貢献している人の思いに迫る場の設定**

「区画整理」を進める際に、市役所の区画整理課で働かれていた方や現在の総代として大門のまちづくりに貢献された方の思いを聞く場を設ける。また、子どもたちの質問や感想を伝えることで、まちづくりへの参画の意識を高められるだろう。

##### **手だて④ まちの発展の「昔」「現在」「未来」をつなぐ場の設定**

区画整理に実際に携わられた神尾元総代さん、現在のまちづくりに尽力されている神尾総代さんに出会わせる。「当初」と「現在」の共通するくらしやすいまちづくりという目的と、時代や住民の変化に対応するという違いを子どもたちに気付かせたい。そして、未来の大門学区に生きる子どもたちだから提案できる「くらしやすくなるための提案」を総代さん方に伝え、コメントをいただくことでまちづくりへの参画の場としたい。

### (6) 抽出児童の設定

A児は、社会科に関する興味が高く、前向きに考える性格である。思いをもって行動する一方で、学級の仲間など周りとの協力や相手の思いを受け止めることにも目が向けられるとよいと感じる場面もある。資料などから自身の考えを仲間に伝えると共に、この単元を通して、自分だけでなく仲間の思いも受け止めてよりよい大門のまち、すなわち学校、学級づくりに向けた課題解決のための判断力を培ってほしいと願っている。

### (7) 単元の目標

- ① まちづくりに貢献された人に出会ったり、仲間と考えたことを十分交流する機会を設けたりすることで、くらしやすい「大門」にするために、自分たちができることを進んで考えようとする。(関心・意欲・態度)
- ② 学区の意見をまとめる過程での葛藤について考え、課題についての話し合いを通して、物事を多角的に判断できるようにする。(思考・判断)
- ③ 区画整理に関する統計資料や家族などから聞き取り調査をしたアンケートを基に、事実と自身の考えを関わらせてまとめることができる。(観察・資料活用の技能)

(8) 単元構想 (12時間完了)

子供の意識	教師の支援
<p style="text-align: center;">大門小学校ができて42年がたつよ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大門小が出来たころはどんな様子だったんだろう。</li> <li>・ 42年前と今の大門学区はどんな違いがあるのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 創立40周年記念のクリアファイルを示し、昔の学校や学区についての児童の関心を高める。<b>手だて①</b></li> <li>・ 追究活動に対する意欲を高めるために、予想をもった上で調べ学習に向かわせる。<b>手だて②</b></li> <li>・ 写真で見て分かった宅地の増加と、統計資料による児童数や人口増の関係について考えさせる。<b>手だて①</b></li> <li>・ 大門学区人口増加の原因について予想し、調べを進める。<b>手だて②</b></li> <li>・ 区画整理か農地整理かの判断を迫られた状況を確認し、その決断の背景となる当時の学区の様子を知る。</li> <li>・ 区画整理に行政側、住民側で携わった方の話と資料を準備して、当時の学区の状況や課題、それを解決するために尽力された方の努力が理解できるようにする。<b>手だて③</b></li> <li>・ 住民の願いを実現するために尽力された総代さんを紹介し、まちづくりに貢献されている姿を理解させる。</li> <li>・ 区画整理に対して、意見が分かれて困難な状況を打開するために努力された総代さんなどの思いや努力を理解できる資料を用意する。<b>手だて③</b></li> <li>・ 区画整理後の学区の発展していく姿について理解できるように、地図や写真などの資料を示す。<b>手だて①</b></li> <li>・ 子供の実感とともに、保護者に聞き取り調査を行って、大門のまちの魅力を確認できるようにする。</li> <li>・ 成果と課題の両面を取り上げる。</li> <li>・ 大門学区を作ってきた人々が、住民の思いを受け、努力によって生活向上に貢献したことを想起させる。</li> <li>・ 調べたり考えたりしてきたことを基にした提案のなるように声をかける。<b>手だて④</b></li> <li>・ まちづくりの最先端で活動している方に、子供の発表についてコメントしていただく場を設ける。<b>手だて④</b></li> <li>・ 現在の大門学区のよさと課題を確認し、それをもとにした未来の学区について考えるように声を掛ける。<b>手だて④</b></li> </ul>
<p style="text-align: center;">大門学区が進化したひみつを探ろう</p>	
<p style="text-align: center;">大門学区はなぜ変化したのだろう①</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 暮らす人が増えて、家を作る場所が必要になったから。</li> <li>・ 田や畑で仕事をする人が減ってきたかもしれない。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">大門学区が進化した理由を探ろう②③</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大門小ができて人口が急に増えたね。</li> <li>・ 学校や家ができたよ。土地はどうやって準備したの。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">区画整理と人口増加はどのようにかわりがあるのだろう④⑤⑥</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 248号線を整備し、学区の田畑を整理する目的があるんだね。そのおかげで、家や店を建てる土地ができたよ。</li> <li>・ 家や店が増えたから、まちがにぎやかになったよ。</li> <li>・ 計画当初は、みんなが区画整理に賛成ではなかったんだ。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">大門の未来を考えて区画整理が進められたんだ</p>	
<p style="text-align: center;">大門学区の人々はどんなまちを目指したのだろう⑦⑧</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家の人にとって土地は命ぐらい大事なものだよ。</li> <li>・ 区画整理か農地整理か簡単には決まらないのでは。</li> <li>・ 総代さんが大門の未来を考え、みんなを説得したんだ。</li> <li>・ 店や病院が増えてくらしやすくなったよ。</li> <li>・ 職場に近い、交通に便利だと家族が教えてくれたよ。</li> <li>・ 長く住んでいる人と引っ越してきてわずかな人が多い。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">区画整理を選んだ人々の思いを受けて 大門学区をどんなまちにしたいか⑨⑩</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学区の未来を考えて努力した人が多くいたね。</li> <li>・ 総代さんは、大門の安全を守るために動いてくれていてうれしいな。</li> <li>・ 大門に住む人の意見をまとめ、区画整理を進めた総代さんのおかげで、すみやすい大門のまちがあるんだね。</li> <li>・ 自分たちの考える住みやすさや、家族の意見をまとめたアンケートを基に、総代さんに意見をきいてほしいな。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">未来の大門学区について考えて動き出そう⑪⑫</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 42年前から今までの学区の人の思いと努力をうけついで、自分たちにできることをがんばりたい。</li> <li>・ 未来の人々がくらしやすいと感じる大門のまちにしていきたいな。</li> </ul>	
<p style="text-align: center;">42年前の人が見て、喜ぶようなまちにしたいな</p>	
<p style="text-align: center;">くらしやすい大門学区を目指して協力していきたいな</p>	

#### 4 研究の実際

##### (1) 大門学区はなぜ進化したのだろう (第1～3時)

第1時の導入として、2年前に作られた手だて①「創立40周年記念ファイル」を子どもたちに示した。「みんなは何年だったの?」と問うと、「**2年生! 自分がいる!**」と至る所からつぶやきが聞こえた。気付いたことを聞くと、「**小さかった**」や「**ぼくが2年生のときは、大門小が40周年だった**」という発言があった。「40周年ってどういうこと」と問いかけると、「**学校ができたのが40年前っていうこと**」と答えがあった。子どもたちの意識が、自身や学校の歴史に向けられた。



その後、手だて④42年前と現在の大門小の航空

【資料1】「42年前の大門小の航空写真」 「現在の大門小の航空写真」

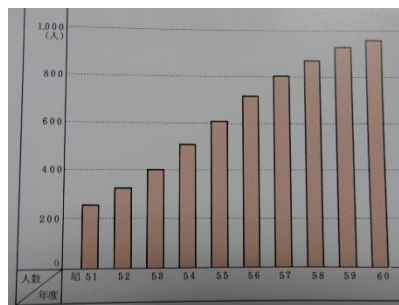
全体の航空写真【資料1】からその変化を探すことにした。「校舎が一つだけ。」「今と違って周りが田んぼばかり。だから、地面がぐちゃぐちゃで公園みたいに遊べるところが少ない。」や「わたしの家や店がまだない。」というように、驚いた様子だった。「何でこんなに進化したのだろう。」「大門学区も変わったと思う」というつぶやきを探ることにした。

第2時では、第1時で用いた航空写真と教師自作の統計資料【資料2】を基にして、「大門学区が進化した理由」を探った。人口が急増した年と大門小学校が作られた年が同じだということに子どもたちが気付いたので、その関連について調べることにした。



【資料2】大門学区人口の推移↑  
大門小児童の推移↓

第3時では、関連について興味をもった「大門学区の人口が急に増えた理由」について考えた。「大門小学校が作られたこと」や「家が建てられて店が増えたこと」という意見が多く出された。それらの意見に対して、子どもから「簡単に学校や家は建てられるのか」という疑問が出された。そこで、学校や家を建てるために必要な物について調べることにした。



- 第1時：人口が増えたのは学校ができたからだと思う。大門小ができたのは人のくらしにかかわっている?
- 第2時：大門小学校ができて子どもを産む人にとって住みやすくなったから人口が増えて進化した。学校ができて人口が増えたからお店もできて住みやすくなった。
- 第3時：大樹寺小が遠かったから大門小ができた。大門小ができたことで、住みやすくなったから家が増えた。 【資料3 A児の1、2、3時のふりかえり】

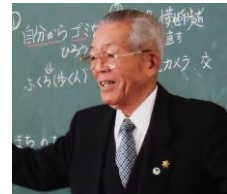
ふりかえりから、A児が課題に対して仮説をもって向き合っていることが分かる。また、大門小学校と人口との関わりについて意識が向いており、「住みやすさ」というキーワードを用いていることで自分事として捉えていることが分かる。

(2) 区画整理と人口が増えたことはどのようにかわりがあるのだろう(第4～6時)

第3時に子どもが調べた「大門小学校や家を建てるのに何が必要か」について発表した。出された意見には、「**工事をする人**」、「**工事をするお金**」、「**材料**」、「**広い土地**」、「**工事で渋滞したり、音がしたりするから周りの人の協力**」といった意見が出された。創立10周年誌を用いて調べる中で、「区画整理」が行われたことに子どもたちが気付いた。当時市役所に勤めておられて区画整理を進められた**手だて③**神尾さんにインタビューした映像を流した。

農村地域であった大門学区は、「区画整理」と「農地整理」の選択が迫られたことを理解した。映像を見

神尾さん：区画整理当時市役所市庁舎で勤められた。元総代・大門学区は、大樹寺学区の一部であった。  
 ・市街化区域となって、立派なまちを作ろうという行動が起きた。  
 ・農家中心で利益を得る「農地整理」か学区住民全体利益を得る「区画整理」かの選択を迫られた。  
 ↑【資料4】神尾さんの説明概要 ⇒【資料5】元総代神尾さん



て、「どっちか迷っちゃう」というつぶやきから、クラスでも、**手だて②**「自分ならどちらを選ぶか」という話し合いをした（「区画整理」19人、「農地整理」11人）。なかなか結論の出せない話し合いを自分たちも経験し、簡単には学区の意見がまとまらなかったという事実気付いた。そして、映像を見た子どもからは、「**もともと土地を持っていた人たちがゆずっているということだから、大門小はいろんな人の土地がつまっているんだ。**」、「**区画整理か農地整理かを選ぶのはとても大変だと思う。未来を考えて区画整理にしたなんてすごい。**」という悩んだ上で区画整理を選択した学区の人々の思いに迫ることができた。

第5時では、前時に子どもから出された「**区画整理で大門がどう変わったか知りたい**」という疑問を取り上げ、「区画整理によって大門のまちがどのように進化したか」について調べた。予想を立てた上で、創立10周年誌や神尾さんのインタビュービデオをもとに調べ学習を進め、第6時では、調べたことを発表した。**手だて②**4人グループで、調べたことを伝

え合い、意見をまとめた。その中で子どもたちは、「**市営住宅が作られて人口が増えた**」、「**248号線など道幅が広がって便利になった**」、「**土地の価格が上がった**」、「**上下水道が整備された**」、「**公園ができて遊ぶ場所が増えた**」、「**町名が分かりやすくまとめられて、地図がすっきりした**」という意見が出された。

- T まず農地整理派の人から意見をどうぞ
  - C1 昔はスーパーなど店が少なかったから、田畑を整理して食べ物が増やした方がいいと思うからです。
  - C2 田畑がばらばらな場所があったから、まず整理した方がいいと思ったから。
  - C3 田畑をまとめた後、家やお店を併ねいと思う。
  - T では、区画整理派どうですか？
  - C4 いろいろな人のためになるし、まちがにぎやかになるから。
  - C5 道路が整備されると便利になるし、公園が増えると小さな子供いる人のためにもなるからです。でも、農地整理の考えも大事で、食べ物が増えなくなると思うから。
  - C6 まず、区画整理をしてからお店を建てた方が、すぐに便利になると思うから。
  - C7 C5さんと同じで、道路がきれいになるといろいろな所で行きやすくなるから。だから住みやすくなると思う。
  - C8 どちらも大事な気がする。
  - T どうやって大門学区の人が選択をしたのか神尾さんのインタビューを聞いてみようか？  
 (神尾さんビデオ視聴)
  - C9 神尾さんの話を聞いて、土地を持っていた200人の意見がまとまったのがすごいと思った。
  - C10 大門の未来のために「区画整理」を選んだことが分かった。
  - C11 「農地整理」がいいと思ってたけれど、大門学区みんなのためには「区画整理」がいいことが分かった。
- 【資料6】第6時「農地整理」か「区画整理」みんなならどちらを選ぶ？ 授業記録

道が整備された」、「公園ができて遊ぶ場所が増えた」、「町名が分かりやすくまとめられて、地図がすっきりした」という意見が出された。

A児は、**まちの選択についての合意形成を経験することで、当時の人々の思いに迫れた**ことが分かる。大門のまちが「住みやすくなる」一方で、大切な自然や町の名前が失われるという面でも区画整理を捉えた。そして、公園名から先人

第4時：学区の選択はわたしが考えているよりもっとむずかしくて、たくさん人の意見がそろわないと土地変えることができないことが分かった。どんな小さな町でも、反対賛成があって決めることが大変だと分かった。  
 第6時：人が住まれようになるのは、自然をなくすことにもつながると感じた。自然を増やすために、募金や緑センターがあるかと思った。昔の町名が公園の名前になっていることが分かった。公園の昔の町の名前が詰まっているから、公園の緑が広がろうと思う。【資料7】A児よりかえり

が込めた思いに迫ることができた。

(3) 大門学区の人びとはどんなまちを目指したのだろうか？ (第7～8時)

第7時では、区画整理によって大門学区が整備され、人口が増えて進化していく一方で、「田畑は農家にとって命ぐらい大事なものののにどうして区画整理に賛成したんだろう」や「すぐには意見がまとまらなかったのに、どうして区画整理に決まったのか」という手だて②子どもの疑問を基に話し合いを行った。

農地整理派の考え、区画整理派それぞれの意見が出された。話し合いを通して、「大門の人びとが自分のことだけでなく、将来の大門を考えたから区画整理という意見にまとまったと思う」という結論に達した。

第7時：みんな大門の未来のために区画整理をしたという意見が多かったから、42年前の大門の人たちもわたしたちのように会議をしてから区画整理になったのではなかっただろうかと思った。【資料9】第7時のA児ふりかえり

- T なせ区画整理したんだっけ
  - C1 田んぼ多くて不便だから
  - C2 C1さんと同じで田んぼ多くて不便
  - T どんな町が不便なの
  - C3 不便だから人が来なくてにぎやかじゃない
  - C4 不便だからお医者さんを作ろうと思った
  - T いきなり家やお医者さん作れないよ
  - C5 まず土地がよい。農地整理をして土地を作る
  - C6 C5さんと似ていて、土地を売る
  - C7 C5さんと同じで、土地売って作る
  - C8 神尾さんがビデオで言ったように、協力してくれた人の土地を売る
  - C9 必要だから田んぼを減らして、土地売って作る
  - C10 みんなの進めのために土地売出すの悪いと思うけれど、土地減っていくものか少なくなるのよやだな
  - C11 42年前の大門の人たちは、未来の大門のために土地売出したと思う。
- 【資料8】第7時の授業記録

【資料9】からA児は、42年前の大門の人々が、未来のためにまとまったことに気付くことができた。さらに、話し合いを通して先人に思いをはせていることが分かる。

第8時では、手だて②「42年前の区画整理に込めた願いはかなえられているか」というテーマで話し合った。第7時の話し合いの中で、「将来の大門」「未来の大門」という言葉が出てきた。どういうことかと問うと、「今の大門がどうなのかということ」という答えが出た。そこで、今の大門学区について整理し、区画整理について考えを深めることにした。

○よいところ…学校や施設があつて住みやすい」「ちよつどよいぐらゐの自然がある」「公園がたくさんあるし、学区公園もあつた」「やさしい人が多くいる」「家が多く、人がたくさん来てにぎやか」「坂道がしっかりと広くていい」  
△よくしたところ…「ゴミがたくさんある」「夜や暗いときどき録音があんまりない」「早川の名で言がなまところがある」「あゝさつさい」  
【資料10】子どもたちが出した大門学区の「よいところ」と「よくしたところ」

話し合いの中で、「うちが70年前からずっと住んでいるから、父さんやじいちゃんにも話を聞いてみたい」という発言があつたので、保護者アンケートで探ることにした。

○大門に住んで何年か 0～10年→12人 11～20年→8人 21～30年→8人 31年→8人  
○なぜ大門学区に住んでいるか ・生まれ育つた町だから→9人 ・職場が近いから→8人 ・住みやすい環境だから→6人  
○大門に住みやすいと思うか (5→住みやすい 1→住みにくい) 5→11人 4→11人 3→9人 2→1人 1→0人  
【資料11】保護者アンケート集計結果

ふりかえりで、「大門学区は、よいところも多ければ、悪いところも少しあることが分かった。そこを変えれば、大門学区はいいところだらけになる。」「農地整理は田畑を持っている人だけが喜ぶけど、区画整理をすることで農地整理の倍大門のメリットになると思って決めたと思う。」「よいところと悪いところは五分五分くらいで普通の町だけれど、悪いところをへらしていいまちにしたい。」「31年以上住んでいるという人数は、大門の住みやすさを表すと思う。」「大人の意見を聞き、やっぱり区画整理を選んでよかった。」と書いた。

第8時：今日の授業を通して、大門のよい所やよくしたい所を知れた。「42年前の人が喜ぶような」ということを考えると、とても気が引き締まるので、いまゴミを捨ててしまう人や、あゝさつさいの音が小さく42年前の人の気持ちを伝えたい。また、今まだ残っているしめ縄のような歴史ある物をわたしたちが守っていこうと思った。【資料12】第8時A児ふりかえり

「42年前の人が喜ぶような」という点から、区画整理を選んだ先人への感謝と、自分た

ちが思いを受け継がなくてはという決意が読み取れる。そして、その思いを伝えたいという大門学区に、そして社会に参画したいという思いの表れが読み取れる。

**(4) 区画整理の思いを受けて大門学区をこんなまちにしたい (第9、10時)**

第9時では、大門のまちづくりについて学んできたことを生かし、大人に提案しようと投げかけた。「誰に提案したらよいか」子どもたちに問いかけると、「親」、「校長先生」、「総代さん」が出された。学校や学年行事に出席してくださる総代さんについて知るために、教師自作のインタビュー映像を流した。【資料12】は総代さんの役割を知った子どもたちの感想である。そして、ふりかえりには、「区画整理をして満足している人もいれば、満足していない人もいる。どうしたらみんなが満足してくれるかを知るためにアンケートをしたい」と書いた子がいた。【資料14】はA児のふりかえりである。

- T 総代さんのインタビューを見てどう思った
  - C1 町民のために働いてすごい
  - C2 病弱が洗剤したり、救急車が入りやすいように道路を作っていたりして改めて大門学区のすごさが分かった
  - C3 防犯や災害のことを考えて暮らしているのは、大門のことを大切に思っていると思えない
  - C4 住みやすくなって便利になったのは総代さんをふくめた昔の人のお礼を言いたい
- 【資料13】第9時授業記録

第9時：総代さんの話を聞いて、大門の便利すぎる所や逆に便利すぎて犯罪にもつながることが分かった。また総代さんの大変さが分かった。 【資料14】第9時A児のふりかえり

A児は大門の「住みやすさ」をキーワードとして学習を進めてきたが、良いと思ったことが反対の面にもつながることに気付いて驚いていることが分かる。この葛藤について、学級の子との意見交換を通して考えを深めさせたいと考えた。

第10時では、大門小学校創立30周年当時に総代を務められた手だて③神尾さんをお招きして授業を進めた。

大門のまちづくりについて学んだことを生かして、さらによいまちにするためのアイデアについて話し合った。

- T 大門のまちがより住みやすくなるために、グループで考えたアイデアを神尾さんに聞いていただきましょう。
  - C1 ごみが落ちてくるから拾いたい
  - C2 道路や横歩道をきれいにして住みやすくしたい
  - C3 道路が広くなりすぎても泥棒などが増えてこまることもある
  - C4 標識をみんなが注目するように派手にする
  - C5 防犯カメラを増やして犯罪を減らしたい
  - C6 防犯のための活動をする
- 【資料15】第10時授業記録

区画整理によって岡崎市の人口が2倍になった。住民の意見がまとまらないことが大変なところ。住んでいる人たちが自分たちで学区をきれいにすることも大事。防犯について、全国でも表彰されているような学区である。これからの学区を支えるみんなに課題を解決してほしい。

【資料16】神尾さんのコメント

第10時：神尾さんの話を聞いて、神尾さんにしか分からないことや、大門の未来についてじっくり考えることができた。次は、神尾さんのお話を生かして、学区についてまとめる本を作ってみるに伝えたい。【資料17】A児ふりかえり

【資料17】から分かるように、区画整理をされた方の思いを受け止めて、学区をよくしたい、学区の成り立ちや当時の人の思いを伝えたいという強い思いが読み取れる。

**(5) 総代会長さんに大門のまちプランを提案しよう (第11、12時)**

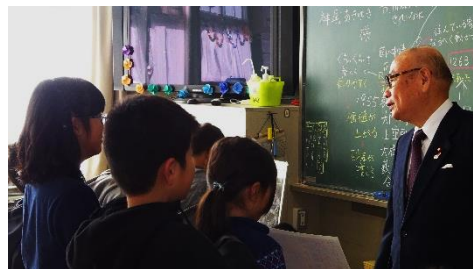
第11時では、神尾さんのお話や、手だて②クラスでの話し合いを通して、より学区の人のためになるアイデアを個人、グループの順で練り直した。手だて④現総代の神尾さんに聞いていただいた。

- ① 区画整理で自然が減ったから木を増やしたい
  - ② 室内の遊ぶ施設を増やす
  - ③ 交通事故を減らしたい
  - ④ 曲がり角で花壇を作りたい
  - ⑤ 建物を頑丈にして地震に備えてほしい
- 【資料18】子どもたちの大門のまちプラン

①安全面のため、歩道が壊れるのは難しい。公園は可能だ。  
 ②市内を見てもたくさんある方だ。  
 ③これは一人一人のマナーの問題。もちろん大門の子にも気を付けてほしい。  
 ④これはまだ、権限の問題がある。ただ、公園なら可能。  
 ⑤市の建物、施設を進めている。一般の建物もそれぞれ進める。

【資料19】現総代神尾さんの返答

子どもたちのアイデアに対して、一つ一つ丁寧に解説も交えながら答えていただいた。大門のまちづくりや市政にぜひ意見をいかしたいというお言葉をいただきました。【資料21】A児のふりかえりから大門学区に住む者として、まちのために何かしたいという参画の意識が高まっていることが



【資料20】総代さんに提案する子どもたち

分かる。また、努力されている総代さんのような方と協力する大切さも感じていることが分かる。

第12時: もっと大門のまちを「住みやすく」したいという思いはあるけれど、みんなのためということは簡単ではないと思った。今の大門学区に感謝することも大事だと思う。総代さんのようにみんなのためがはばってくれる人を大事にしたい。 【資料21】A児ふりか

## 5 研究の成果と課題

### (1) 仮説①に関する成果

手だて①については、創立40周年記念ファイルを用いた導入や、40年前と現在の航空写真を見比べる活動を通して、子どもたちが「大門小学校」「自分」「学区の変化」の関わりについて目が向けられたことが分かる。(P4【資料3】第1時A児ふりかえり) また、保護者アンケートを基に、まちの「よいところ」や「よくしたいところ」を見直すことで、まちづくりに携わった学区の人々の思いに迫ることができたことが分かる。(P6【資料12】第8時A児ふりかえり) 以上から手だて①は、子どもたちが課題を自分事として捉えるために有効だったといえる。

手だて②については、第7時に「区画整理」か「農地整理」か自分ならどちらを選択するかというテーマで話し合っただけで授業記録やふりかえりから、社会参画へ向けての意識が高まったことが読み取れる。(P6【資料12】、P7【資料14】) 以上から、手だて②の意思決定や意見交換の場を増やすことで、様々な立場があることを踏まえたうえでの社会参画へ踏み出そうとする態度を養う上で有効であったと考える。

### (2) 仮説②に関する成果

手だて③については、区画整理に携われた元総代の神尾さんの思いに迫り、子どもが考えを伝えることで、社会参画への態度が養われたことがうかがえる。(P7【資料16】元総代神尾さんのお話、【資料17】A児ふりかえりより)

手だて④については、元・現総代の神尾さんをゲストティーチャーとしてお招きして思いに迫り、今と昔のまちづくりに見られる共通点を探ることで、大門のまちへの愛情に気付くことができた。さらに、子どもたちが考えを伝えることで、よりよい社会づくりの実現のための問題解決を図ろうとする姿が見られた。(P6【資料12】、P8【資料21】より)

### (3) 課題

手だて③まちの発展に関する「人」との出会いは効果が大きい一方で、影響が強すぎて学びの積み重ねが途切れてしまうことある。(P7【資料15】子どもの提案に影響あり)

## 6 おわりに

本研究を通して、子どもたちは先人が経験した葛藤を体験して、まちづくりを進める大変さを感じた。個、大人数、まちと大切にすべき立場は一つではないことに気付いた。様々な立場の思いを受け止める、意見を関わらせることで、よりよい社会づくりへの参画への第一歩を踏み出すことができた。